

# 未来への教訓

復興！ 大津波の記憶を風化させない

平成28年(2016年)  
～地元報道より～

## 2月の出来事

### 南三陸町

◇南三陸町は人口減対策総合戦略で、クーポン券や医療費助成計画の施策により、計画最終年度の平成31年に、合計特殊出生率を1.40以上、転出超過260人未満に抑える事を目標にする。

◇南三陸町は医師確保に奨学金制度を継続する。大学入学時に500万円以内、月額25万円以内とした。また、看護師・薬剤師には免許取得の在学中に月額7万5千円を無利子で貸し付ける。修学後は南三陸病院に勤務する意思が条件としている。

◇南三陸町で在宅高齢者の栄養ケアの重要性を学ぶ「医療フォーラム」が開催され40人が参加した。

◇志津川小学校で早稲田大学の陸上現役アスリートが「陸上教室」を開き指導をした。

◇南三陸・気仙沼の水産加工業の宿舍補助で、両市町で11件が交付された。南三陸町の県からの決定を受けた業者を対象に、事業費の4分の1(上限1000万円)を上乗せ支援する。合わせて最大で4分の3(上限3000万円)が補助として受け取れる。

◇南三陸町の「ポータルセンター」が、日本政府観光局の案内所に認定された。観光協会では英語を話せるスタッフの育成に取り組み、外国人旅行者の誘客に力を入れる。

◇南三陸町サケふ化場は、稚魚の放流の目標に届かず、1千万粒にとどまった。海産親魚の活用を図ったが「発眼率」が思わしくなく、遡上サケ数の増に新たな対策が求められている。

◇南三陸町社会福祉協議会は、コープ東北と「フードバンク」の協定を締結した。緊急支援を必要とする町内の生活困難者に、生協から譲り受けた食料品を一時的にセーフティネットとして活用する。

◇南三陸地区安全運転管理者会が「全日本安全協会会長表彰」を受賞した。地域の事故防止に貢献した。

◇南三陸町の高台に整備する「生涯学習センター」の建設にあたり、シンガポール赤十字から4千万円が寄付された。

◇南三陸町は新年度から10年の「第2期健康づくり計画」の素案をまとめた。町民から意見を公募し健康増進と食育推進を今後図っていく。今回は町民の20歳以上の男女を対象に実施した。

◇南三陸町歌津の仮設商店街「伊里前福幸商店街」が、7日移転再オープンとなった。

◇1月26・27日の両日発生した「台湾地震」に、南三陸町は現地赤十字に100万円の寄付をした。震災支援の恩返しと、今月末まで公的施設に募金箱を置き、被災地支援を展開する。南三陸病院の建設支援に20億を超える多額の支援が台湾よりあった。

■南三陸町は町議会議員の報酬を月額平均2.8%引き上げる条例改正案を、8日の「臨時議会」に提案する。合併後初の引き上げで月額23万円となり、以前より9300円のアップとなる。

■議員報酬で臨時議会。「時期尚早」との意見の中で、反対7賛成8で可決となり引上げ。〔議員報酬引き上げは『妥当』かと、町民から疑問視する声〕

■特別職(町長・副町長・教育長)の給与改定とともに、議員報酬の引き上げとなった。町総務課は人事院勧告の給与改定を受け、3回にわたって消滅してきた。これまでも特別職に準拠し、提案してきた。議案の上提は「慣例」に基づく対応という。

町民は「震災から5年が経ち、今もギリギリの生活の中で、もっと議論をしてほしかった」と話す。

本議会の質疑では、三浦・及川・今野の3氏が反対意見を述べ、菅原・後藤の2氏が賛成意見を述べた(5月1日発行の南三陸町議会だよりにて)。

星議長は、議員報酬や定数に関して、今後は「議会改革特別委員会」で議論していくと話す。

◇1月18・19日の低気圧被害が10億円となり、被災は養殖ワカメに集中した。

◇南三陸町歌津のまちづくり団体のNPO「夢未来南三陸」が、復興庁と気仙沼信用金庫の助成を受け、歌津に伝わる伝統食を、子や孫に残すための商品化に取り組んでいる。

◇南三陸町ジュニア綱引き大会が開催され、入小引っぱり隊が優勝し、志小レジェンドが準優勝になった。1チーム10人で町内から14チームが参加した。

◇75才以上の後期高齢者の震災被災者の窓口医療費負担の免除が本年度で終了する。南三陸町の後期高齢者の約2600人のうち約350人が対象となっている。

◇公立高校前期選抜で本吉地方は181人が合格した。気仙沼高が72人、本吉響高が32人、志津川は普通・ビジネスを合せ5人が合格した。

◇南三陸町入谷の農家グループが香辛料や漢方薬などに利用される「当帰(トウキ)」栽培に力を入れ、商品化し新たな入谷の特産にしようと活動している。

◇復興庁が設置した、東北観光アドバイザー会議が14日南三陸ホテル観洋で開催され、外国人誘客の提案が次々と出された。

◇南三陸町戸倉の国道398号線沿いに「南三陸・海のビジターセンター」の安全祈願祭が16日開催された。南三陸や石巻・登米の市町を「ワールドミュージアム」と称し、環境学習の拠点にする。

◇県が募集した本年度の「再生可能エネルギー等省エネルギー大賞」に、南三陸町のバイオガス事業のアミタの取り組みが県優秀賞を受賞した。

◇県が地域の活性化に取り組む団体として、南三陸ホテル観洋が「みやぎおもてなし大賞」で特別奨励賞を受賞した。

◇南三陸町で28日、有志が鉄道復旧を求め、実現の会設立への集会を開いた。

◇南三陸町歌津の伊里前集合住宅と戸建ての「災害公営住宅」の整備が追い込みを掛け、完成間近となっている。3階建ての集合住宅2棟(50戸)と、戸建ては2階・平屋と合計10戸で構成する。

◇南三陸町は4月から「町民バス」の運行を有料にする。地区内は200円で地区をまたぐごとに100円が加算される。

◇南三陸町歌津の伊里前地区の嵩上げが始まった。1.4haを5.5mの土盛を開始し、来年3月の完成を目指す。新商業施設はイベント広場や駐車場など合計5300㎡を整備する。

◇宮城交通の気仙沼～仙台間の「高速バス」の運行が、運転士不足から仙台～気仙沼・南三陸までの1便ずつが29日から減となる。

◇南三陸町は23日に移住者意見交換会が開かれ、移住者からは住む場所が足りない・移住したい人は沢山いるなどの、意見があった。空き家などの住宅の確保などが訴えられた。現在歌津峰畑に定住促進住宅が6戸建設され、30年3月まで家賃半額で入居してる。

◇完成した町営小森ふ化場から、初めての放流が25日に八幡川で行われ、20万匹が復旧後に初放流された。

◇台湾大地震を乗り越え、台南市から修学旅行の高校生64人が南三陸町を訪れ、民泊体験などで町民との交流を深めた。住民は、今後は自分たちが恩返しと高校生を歓迎した。

◇南三陸町の防災対策庁舎跡地の立ち入りが4月から禁止となった。2年間の「祈念公園」工事が開始されるためだ。

◇本吉地区の高校入試後後期出願で、倍率トップは向洋産経科の1.33倍だった。志高は普通0.19・ビジネス0.37。4校5学科で定員割れとなった。

◇南三陸町の新年度一般会計予算が総額558億となり、前年度と比べて35億5千万円(6.8%)増加した。過去2番目の予算規模で、住宅再建が仕上げに向かっている事が要因。

南三陸町と気仙沼市の復興の進捗と問題を比較して見れます。

### 気仙沼市

◆カツオ漁業者が資源の現状を課題に、釣り・巻き網業者が結集しフォーラムを開催した。最後にカツオ漁存続へ「気仙沼宣言」。

◆気仙沼市は「ふるさと納税」の複数回の納税に対し返礼品は1回と言っていたが、寄付回数に応じて1人何回でも貰えるよう変更する。豊富な品でリピーターを担い、ふるさと納税の増額をねらう。本年度現在で8197件・1億2569万円となり、昨年より2倍となっている。

◆震災対象者に最大350万円を無利子で貸し出す「災害援護資金」の利用者が28年度12月まで41件・1億400万円となり、29年度も資金需要が見込まれ、予算を維持する。

◆気仙沼市の国民健康保険が30年度から県に1本化される。市では現在1万9144人と、23年から9703人が減った。加入減による負担額の増で市の国保財政は難しくなっている。被加入者は6割が60・70代となり、23年と比べ医療機関の支払いは4千円ほど高い。また、震災後に国保から社保への変更も増加している。

◆気仙沼市で、東北大災害国際研究所の「防災文化講演会」が開催され「古文書や地域の歴史

を守り、学ぶことが将来の減災につながる」と締めた。

◆気仙沼市は住宅再建に独自支援を手厚くと、補助上乗せを菅原市長が明らかにした。県議会震災復興委員会と市議会の意見交換の中で語られた。市の想定より申請が少なく、独自支援予算の余裕から。

◆東陵高校は、県剣道選手権大会で4年ぶりに優勝した。優秀選手には6人抜きの磯選手が輝いた。

◆フェンシング男子団体は五輪の出場を逃し、気仙沼出身の千田選手もオリンピック出場は叶わなかった。

◆気仙沼市は4年間で21cmが隆起し、その分の防潮堤を低くして、10ヵ所の建設を決めた。

◆新たな気仙沼名物にと、向洋高校生が発案した「酒かすスイーツ」が完成し、12日から市内の菓子店で販売される。

◆気仙沼市の28年度一般会計の当初予算の市税を58億4千万円と計上した。昨年と比べ約4億6千万円の増収で(8.5%)多い。再建が進み担税力が回復しているものの、震災前には届いていない。

◆気仙沼市の「追悼祈念公園」の候補地として、漁火パーク・内湾(陣山)など5ヵ所があがっている。復興が見られる場所をと、来月選定される。

◆気仙沼市の吉田造船鉄工所で、防衛省からの県内初の受注、全長46.5m、幅7.8mで軽油590klの積載が可能で3億4千万円の建設費。吉田造船

の実績は、4社を中心に設立の「みらい造船」に引き継がれる。

◆気仙沼市唐桑の大船渡線BRTの素通りはもったいないと、唐桑にも「駅」をを求める声が高まっている。観光振興や、利便性のためにも必要と地域は求めている。

◆気仙沼駅前公営住宅(194戸)の隣に整備する集会所の施設棟(商業スペース)への入所が、今のところ希望がゼロとなっている。施設建設の費用の増加があり、賃料が高騰し出店意向がない。

◆気仙沼市は、企業の本社移転や拡充に、固定資産税の優遇を図る。

◆気仙沼市議会は、本会議での審議や議員活動などにタブレット型端末導入することを決めた。IT化で効率的にとの、改革だと話す。

◆宮城県議会で気仙沼市出身の守屋県議の質問で、フラットゲイトを導入を求めた事に対し、村井知事は安全性や確実性の面から否定的な姿勢を示した。

気仙沼市は新教育長に、教育委員長の齋藤盛男氏(64)を任命した。市は昨年4月に教育委員会制度を変更した。教育委員会の代表としての教育委員長を一本化し、教育委員長を廃止した。新制度で初めての教育長が任命された。